

平成22年度臨床研修医マッチングの結果について

平成22年10月28日（木）に、医師臨床研修マッチング協議会から平成22年度のマッチング結果が公表されました。県内の状況等について、茨城県医師臨床研修連絡協議会の山口高史会長に総評をいただきました。

茨城県医師臨床研修連絡協議会 会長 **山口 高史**
(独立行政法人国立病院機構水戸医療センター統括診療部長)

本協議会は、できるだけ多くの初期研修医に茨城県で研修していただくための環境整備を行い、それを周知することを主体に、平成19年より活動を行ってまいりました。

今年のマッチング数の結果は、昨年より10人増加の114人で、大学病院を筆頭とする研修病院、医師会、県の三位一体の活動の結果が少しずつ現れてきたと考えています。

他県との比較においてもマッチ者数は全国16位、マッチ率は61.6%で27位でした。また茨城県の内訳を見てみると、昨年8名であった県北・県央のマッチ者数が15人と倍近く増

加となったことは、特筆すべきであり、関係各位の努力の賜物と思われます。しかし、一方で本県の定員にはまだ71人の空きがあり、なおいっそうの努力が必要と感じております。

ご存知のとおり、最近医師臨床研修制度の見直しが行われ、研修プログラムの弾力化が可能となった結果、いかに初期研修医のニーズを取り込むかが前にも増して重要な課題となってまいりました。また、各県単位で初期研修医の獲得にしのぎを削っている現状もあります。

今後とも関係各位のご協力をお願いする次第です。

研修医マッチングに係る実績状況

単位：人

	平成22年度						平成21年度					
	募集定員			マッチ者数			募集定員			マッチ者数		
	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院	総数	大学病院	市中病院
全国	10,692	5,122	5,570	7,998	3,828	4,170	10,500	4,951	5,549	7,875	3,916	3,959
茨城県	185	98	87	114	80	34	178	96	82	104	76	28

充実した臨床研修のため、さまざまな支援を行っています

合同説明会

医学生向けに情報収集の場を提供するため、県内全ての臨床研修病院が、合同で説明会を開催しています（詳しくはP4をご覧ください）。



救急ライセンス研修

AHA（米国心臓協会）公認プログラムによる救命措置の研修会を開催し、受講料の一部を補助しています。



指導医養成

充実した臨床研修のためには指導体制の強化が不可欠です。指導技術向上のための講習会やシンポジウムを開催しています。

女性医師

茨城県医師会内に、子育て中の医師を支援するための相談窓口を開設するなど、女性医師の働きやすい職場環境づくりに努めています。

元気な赤ちゃんが生まれるとうれしい気持ちになります～産婦人科医からのメッセージ

医師不足のため1年間産科を休止していた(株)日立製作所日立総合病院は、日立市と東京医科大学の協定により医師の派遣が決まり、今年4月から正常分娩を基本として産科を再開しました。そのような中、現場で活躍する産婦人科医にお話をいただきました。

●地域のお役に立てていると感じています

…産科の現場はいかがですか？

医学生の時に、産婦人科の研修で出産に感銘を受け、お産に立ち会う仕事に就きたいと思って産婦人科医を目指しました。産科の医師になって3年目、東京医科大学病院の医局に所属し、現在は派遣で当院の産婦人科に勤務しています。東京と比べ日立地域は、大きな病院が周辺にないので、重篤な患者さんをどうするかが一番の問題になります。妊婦さんや赤ちゃんを専門の病院に搬送すると、かなり遠くになってしまい、家族がお見舞いに行くのも、お母さんが毎日面会に行くのも大変です。

病院の近くの産婦人科の先生方とお話しする機会がありました。高齢の先生が頑張ってお産のお仕事をされています。若い先生が少ないという印象を受けました。お産になると、体力も必要になってきますから、人手が足りないのはやはり大変だと思いました。

当院は、今年の4月から産婦人科が再開され、毎月20人ほどの出産がありますから、地域のお役に立てていると感じています。

…仕事でやりがいを感じることは？

妊婦さんは、妊娠や出産に対する精神的な不安や悩みをお持ち

(株)日立製作所日立総合病院
産婦人科医師 谷口 美咲



ちだったりします。お話しをして少しでも安心してもらえると、アドバイスができてよかったと思います。何年たっても、お産の時に元気な赤ちゃんが生まれるとうれしい気持ちになります。赤ちゃんが生まれて、家族が「おめでとう」って言っているのはいいなと思って見えています。

●産婦人科医の女性医師が増えています

…茨城は産婦人科医不足ですが、東京は？

東京は産婦人科だけでなく、どの科も医師が充実している部分があります。私は出身地である北海道の病院に勤務していたこともありますが、やはり産婦人科医はかなり少なかったので、

地方ではどこでも同じような状況ではないでしょうか。

ただ、医師が少ないから大変なのであって、たくさんいれば決してつらい診療科ではないと思います。今、産婦人科の女性医師もすごく増えてきていますし、私の医局も女性が多く、働きやすい環境になってきています。私自身も結婚していますが、仕事を続けることができています。

●産科は喜びの多い診療科です

…産婦人科医としての目標は？

やはり、お産にできるだけ長く携わってたいです。できるのであれば、もっと妊婦さんのことをゆっくり診てあげられればいいなと思います。

…医学生、研修医の皆さんへメッセージを

医学生や研修医が茨城にたくさん残ることで、次の世代もまた、たくさん残ると思います。そのつながりが地域医療を活性化していく気がします。

そのための環境づくりも、もちろん重要だと思います。医師を引き受ける体制とか、学生自体に女性が多くなってきますから、結婚、出産というのはやはり悩みであるので、そういうサポートを他の県よりも充実されていくと良いのではないのでしょうか。子どもを24時間預かってくれる施設が、一番欲しいのだろうなと思います。

産科は、すごく喜びの多い診療科です。家族全員がうれしそうにきて、うれしそうに帰って行く診療科は他にはなかなかありません。婦人科も腹腔鏡手術などさまざまな手技を学べるし、やりがいのある診療科です。ぜひたくさんの方に、産婦人科医として茨城で活躍してほしいです。

産科再開には、寄附講座開設による大学・自治体・病院の連携がありました。医師派遣を担う東京医科大学でリーダーを勤める伊東宏絵医師にもお話をいただきました。

…再開して9カ月がたちます。ご感想は？

(株)日立製作所日立総合病院の産婦人科が閉鎖しており、医師を捜しているという話を聞いた時、今まで年間1,200人が分娩をしていた大病院の妊婦さんたちは、どこへ行ったのだろう。健診の都度、遠方に行くのはさぞ大変だろう。近隣の開業医の先生方は急に分娩数が増え、疲労困憊しているだろう…と思いました。産婦人科医師不足とはいえ、東京は比較的充足しているため、できる範囲で力になりたいと思いました。できれば常勤医師をと思いますが、一度に3人を派遣することは現在の東京医大病院では不可能ですが、一日も早く分娩を再開したいという思いから、医師が固定されないが始めてみよう。その間に適任の常勤医師を探していこうという考えにより、今年4月から赴任させていただきました。9カ月が経ち、外来数、分娩数も徐々に増えており、少しずつ長いサイクルで医師を派遣できるようになり、来年4月から1人は常勤で派遣できる目処が立ちました。体制が整ってくれば、以前のような高リスクの妊婦さんの受け入れや、婦人科一般の診察も可能になっていくと思われます。幸い日立総合病院の他科の先生方は非常に親切で、今後増えていくと思われる、他科疾患合併症妊婦にも十分な連携をしながら医療が行えると心強く感じています。

※ 伊東先生には、リーダーとしてのご苦労など、さらにお話をいただいておりますが、誌面の都合上、**要約版**となっております。全文は「茨城県医師確保支援センター」のホームページに掲載しています。詳しくはP4をご覧ください。

病院紹介コーナー

牛久愛和総合病院

当院は常磐線沿線の牛久市にある総病床504床の地域医療を担っている総合病院です。平成16年度の臨床研修制度改革以降、基幹型臨床研修病院として、毎年初期研修医を受け入れ、現在までに15人の研修医を輩出しています。

当院の初期臨床研修の理念は、将来何科を専攻するにしても、一人の新患を目の前にした時に、適切な鑑別診断と迅速な緊急処置ができ、更に専門的な診断・治療が必要か判断できる実力をつける事と考えています。また、単に技術や知識の習得だけでなく、医師である前に一人の社会人として、マナーや人との対話の能力など人格的なものを磨く事が、更に大切と考えています。

第一線の市中病院の特徴を生かし、症例数も豊富である当院は、研修理念に必要な環境は十分備えていると自負しています。また初期研修を終え、更に専門性の高い研修を望む



後期研修にも対応できる専門科もあります。将来は当院のスタッフとして病院の核となっていけるような人材を自ら育てることを目標に、病院全体で臨床研修に取り組んでいます。興味を持った方はぜひ一度のぞいてみてください。

Relay Essay 研修医リレーエッセイ

茨城県立中央病院
初期臨床研修医 大久保初美

私は今年の4月から茨城県立中央病院で研修をしています。外科系、総合診療内科での研修を終え、現在は循環器内科で研修しています。少しずつ慣れてはきましたが、半年経った今も分からない事だらけで悪戦苦闘する毎日です。

私たちの病院では、研修科に関係なく、当直、日直、平日の当番として、救急外来を受診された患者さんを診る機会に恵まれています。発熱や骨折の方から、意識障害などの重症までさまざまな患者さんの診療にあたることができます。自分で考えながら、患者さんを診ることができるので、とても貴重な経験となっています。また、研修医には指導医の先生がついてくださるので、患者さんについて質問したり、先生方の診

療を見ることができ、大変勉強になっています。

病棟での研修では、担当医として患者さんを受け持っています。指導医の先生の下について、患者さんを実際に診ながら勉強していくわけですが、教科書どおりにはなかなか行かないことも多く、医学の難しさを実感しているところです。

初期研修もあと1年半弱となってしまったわけですが、少しずつでも成長できるように頑張りたいと思います。



県立中央病院での研修の様子

茨城県からのお知らせ

ホームページをリニューアルしました

茨城県医師確保支援センターのホームページをリニューアルしました。

イベントやお知らせの内容を「医師」「研修医」「医学生」「高校生」向けに整理し、知りたい情報をすぐに探せるようにしました。

医学を志す若者から、最前線で活躍するベテランの方々に、少しでもお役に立てるよう、有意義な情報を発信していきますので、ぜひご活用ください。

茨城 医師確保

検索



【注目】

リニューアルに併せて、ブログとTwitterも始めました。

ブログでは、医師や医学生との触れ合いの中で感じたことを日記形式で、職員自らが掲載しています。Twitterは、閲覧だけでなく、皆さんもぜひ参加してください。

茨城の医療をより良いものとしたい職員の熱い思いに注目してください。

(ブログ) <http://ibadoc.exblog.jp>

(Twitter) http://twitter.com/iba_doc

茨城県臨床研修病院合同説明会開催決定

茨城県の臨床研修病院が一堂に会し、合同説明会を開催します。全国屈指の充実した指導体制と魅力ある研修プログラムを紹介します。

【東京会場】

日時：平成23年3月13日(日)

場所：秋葉原ダイビル5Fカンファレンスフロア5B

内容：病院別ブースによる個別相談

対象：医学生、研修医、勤務医

【つくば会場】

日時：平成23年3月27日(日)

場所：つくば国際会議場1F多目的ホール

内容：臨床研修病院プレゼンテーション

病院別ブースによる個別相談

対象：医学生

両会場とも入場無料です。参加申し込みについては、ホームページなどでご確認ください。

平成23年度自治医科大学入学試験案内

自治医科大学医学部第一次試験を行います。

将来、本県の地域医療に貢献する情熱を持った方の応募をお待ちしています。

【願書受付期間】

平成23年1月4日(火)～18日(火)17時必着

【学力試験】

平成23年1月24日(月)9時～

【面接試験】

平成23年1月25日(火)10時10分～

【一次合格発表】

平成23年1月28日(金)13時

【試験会場】

茨城県市町村会館

※ 二次試験は2月3日(木)に自治医科大学で実施します。合格発表2月18日(金)

茨城県医師確保支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内) TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp